さくら

学校法人ノースアジア大学広報

SAKURA

2007.8

VOL.212

CONTENTS

P2　学校法人ノースアジア大学記念式典挙行
　　国際的視野に立ち、地域社会貢献を
P3　中国天津市和平区等と連携協定
P4−5　来年4月観光学科を開設
　　日韓中産業交流会に参加
　　自治体と観光連携協定結ぶ
P5−6　平成19年度予算・平成18年度決算
P7−8　大学祭『高杉祭』開催
　　大学・短大、看護福祉大でオープンキャンパス
P8　キャンパスニュース
　　学生ほっとスペース開設ほか

国際的視野に立ち、地域社会貢献を

本法人では６月24日、「学校法人ノースアジア大学記念式典・祝賀会」を秋田ビューホテルで挙行し、来賓、卒業生や学園関係者及び教職員を含め約800名が出席しました。

式典では始めに小泉健理事長兼学長が、現在の教育活動と学園全体の改革への取り組みについて「これまで以上に情熱を持って教育に取り組み、活力ある人材を育成し、微力ながら地域社会、国際社会に貢献していきます」と決意を述べました。

社会貢献に向け決意を述べる小泉理事長

来賓を代表して、銭谷眞美・文部科学省初等中等教育局長（現・文部科学省事務次官）が「国際的な視野に立って、アジア、日本の北の地域を繋ぎ、地元秋田に根ざし、地域の発展と活性化に貢献し、世界に発信する大学になることを期待しております」と祝辞を述べられました。

銭谷文科省事務次官による祝辞

その後、小泉理事長と学生、生徒、園児らが除幕を行い、「ノースアジア大学」のロゴマークを披露、盛大な拍手の中で式典を終了しました。

大学ロゴマークを披露する学生たち

同会場で引き続き行われる祝賀会に先立ち、「オープニングとして歌唱披露とピアノ演奏が行われ、オペラや交響楽団とも共演し、幅広い活動をしているテノール歌手の小林彰英氏と東京音楽大学専任講師腰塚賢二氏のピアノ演奏による「ノースアジア大学学歌」、「オソレ ミオ」、「さくら」が披露されました。「さくら」では、明桜高校吹奏楽部の生徒30名との合唱を行い、美しい歌声のハーモニーが会場を包みました。

小林氏による学歌披露

明桜高校吹奏楽部生との「さくら」合唱

祝賀会では、小出秀文・日本私立大学協会事務局長が「このたびの名称変更は、高度化され情報産業と国際化に向かう大学の的確な対応と感じました。今後は、理事会・教職員と理念を共有し、目標の実現に進んでいただきたい」と祝辞を述べられました。

小出事務局長による祝辞

続いて、脚本家で本学客員教授の内館牧子氏が「この改革により、学園が必ずや良い方向に進むと感じています。そして、多くの卒業生にも素晴らしい学園にすることを誓わなければならない。そのために客員教授として力添えいたします」と祝辞を述べられました。

内館氏による祝辞

その後、来賓、学園関係者16名が威勢よく鏡開きを行い、佐々木秀幸・東京マラソン組織委員会事務総長より乾杯のご発声をいただき祝宴に移りました。県内外の経済界、行政機関・教育機関等の本学園と関わりの深い方々が一堂に会した会場では、それぞれのテーブルで歓談の輪が広がりました。

佐々木氏による乾杯のご発声

最後に、渡邉靖彦秋田商工会議所会頭のご発声で、出席者全員が万歳三唱を行い、祝賀会を締めくくりました。

学園の発展願い、勢いよく鏡割り

締めくくりの万歳三唱

留学先、実習先の充実を図る

中国・天津市、国際旅行社と交流協定

本学は６月13日、中国・天津市において天津市和平区国際交流促進会と「留学生に関する協定書」に調印。翌14日には天津市旅遊局、天津中国国際旅行社と「交流に関する協定書」に調印を行いました。

本学は来年度観光学科を開設し、アジア・世界に目を向けた教育活動を展開します。アジア、とりわけ中国・日本の両国の文化・歴史・社会を理解し、国際社会で活躍できる人材を育成する取り組みに対してご理解いただき、今回の協定締結となりました。

国外の行政府及び旅行社と提携を結ぶことは、本学にとって初めてのことであり、これにより天津市和平区国際交流促進会から本学への留学生派遣と本学から天津市旅遊局、天津中国国際旅行社での短期実習が可能となりました。

調印後、小泉理事長は「本学観光学科は、社会に適合した実践的な教育を目指しております。この意図を天津市和平区国際交流促進会並びに中国天津市旅遊局、天津中国国際旅行社にご理解いただき、交流に関する協定を締結できたことを感謝します。今後は、この交流を通じ、両国の文化・歴史・社会に対する理解を深め、アジア地域の発展と両国の親善に寄与できる人材を育成していきたい」と述べました。

天津市和平区国際交流推進会と調印

天津市旅遊局と調印

天津中国国際旅行社と調印

天津市和平区青年幹部研修団を受け入れ

本学で国際講座実施

本学では８月６日から10日にかけて天津市和平区人民政府の青年幹部研修団29名を国際講座の受講生として受け入れました。本学は同区の国際交流促進会や旅行会社などと交流協定を結んでいます。

講義内容は地域経済政策や自治体機能など多彩

国際講座はアジアに開かれた大学として同区の要請を受けて実施したもので、相互の知識と経験を共有して、アジア諸国が抱える様々な課題の解決に向けて協力、支援するものです。

７、８日の両日行なわれた講座は市町村合併や社会保障などを取り上げました。どの講座でも団員はメモを取りながら熱心に聞き入り、質疑応答も盛んに行なわれました。

また、一行は受講に先立って秋田県庁を訪れました。ここでは学術交流部長らと懇談し、「秋田県と同区の交流関係の一層の発展を望む」との歓迎を受けました。一行を代表して同区検察院副検察長の刘在青団長は「これまでの教育交流の成果をもとに経済・文化の交流に広げたい。今後も定期的に研修に訪れたい」と述べました。

講座を終えた一行は９日、小坂町長、仙北市長への表敬訪問と併せて十和田湖、小坂町のリサイクル施設や角館の武家屋敷などを見学し、秋田の自然や技術、文化を堪能しました。

講義を熱心に受ける研修生

学術交流協定締結

中国・南開大学漢語言文化学院と

この６月、本学は中国・南開大学漢語言文化学院との間で「交流に関する協定書」に調印しました。

今後は両大学で教員や学生の交流、共同研究や学術的な情報の相互提供などを実施し、協力関係を発展させることになりました。

南開大学

南開大学は、1919年に創設された中国で最も有名な最高学府のひとつであり、国家級重点総合大学です。（周恩来首相の出身校でもあります）

現在は、約３万人の学生が在籍し、中国科学院院士、中国工程院院士などの中国の国家レベルの研究者を含む約1,500名の教員から講義を受けています。

また、外国人留学生の受入れは50年以上の歴史を持ち、中国において最も古くから留学生を受け入れている大学の１つです。1993年には、国家教育委員会の許可を得て漢語言文化学院を設立。設立後は七十数カ国から約１万人余りの留学生を受け入れ、海外の教育機関との交流や提携を拡大発展し、留学生に高いレベルの中国語言文化教育を提供しています。

多くの留学生が学ぶ漢語言文化学院

来年4月から観光学科を開設

定員60人で募集開始、ＡＯ試験９月より　（届出受理）

本学は平成20年度開設に向けて、観光学科の設置届出書を文部科学省に提出、６月25日付で受理されました。

同学科の定員は60名。AO入学試験Ⅰ期（９月）から募集を開始します。

法学部観光学科とは

観光学科は、観光法規・観光行政・アジアの政治及び観光関連企業の管理・経営に力を入れ、法的素養を身につけた国際性豊かな観光業におけるリーダーを育成することを目的とします。英会話、中国語会話、ハングル（韓国語）会話などのほか、観光学総論、ホスピタリティ論、観光地理、ホテル経営論、旅行事業論、エアーライン事業論などの観光関連科目を開講。

また、観光立県秋田の実現に向け、県内の各市町村と観光に関する連携を深め、観光行政のリーダーとなる人材を育成することも目指します。

さらに、本学が協定を締結している全日空傘下のＡＮＡ総合研究所のほか、ホテル・旅行会社などと連携して実践的な教育を行い、就職支援の充実も図ります。

観光学科では、国際観光コース、観光行政コース及び観光企業コースを設定します。

このコース制は学生が専門科目を履修する上で、数多くの授業科目の中から自分の進路を考えて、学習目的に必要な科目を効率よく選択できるように配慮して設定しています。

国際観光コース

特にアジア諸国における国際政治や国際観光に強い国際人の育成を目的としています。語学を活かして、日本と特に東アジア諸国との橋渡し役として、海外進出企業の幹部社員や国際交流を担当する地方公務員として貢献できる人材の育成を目標としています。

また「キャビンアテンダント」や、「ツアーコンダクター」として活躍できる人材の育成にも力を入れます。

観光行政コース

町おこし、村おこしなど、地域社会の活性化の担い手となれる観光行政に強い公務員の育成を目的としています。公務員として必要とされる幅広い教養・学識及びその応用力・実践力を高めることを目標としています。

観光企業コース

ホテル、旅行会社及び航空会社などの観光企業において法的素養を身につけた企業人として活躍できる人材の育成を目的としています。

さらに「旅行業務取扱管理者」や「ビジネス実務法務検定」、「宅地建物取引主任者」などの資格取得も目標としています。

学生に学問の楽しさを伝えたい

小泉理事長が北京外国語大学で講演

小泉健理事長は６月15日、北京外国語大学日本学研究センター内の会議室で同大日本語学部の学生と同大日本学研究センターの大学院生約100人に対して講演を行いました。

小泉理事長は「現代日本学生の人生観」と題し、中国・韓国・アメリカと日本の学生を対象に行った意識調査の集計結果をもとに、各国の学生の学問や人生に対する意識の違いについて述べました。その中で、中国の学生は「勉強して偉くなりたい」「法律家や企業のトップになりたい」という向上心や希望を持っていて、また、自分に自信を持っていることを称えました。一方、多くの日本の大学生が大学に通っていながらも「学ぶ」ことに意義を見出していない現状を危惧し、自らの学問との関わり方や仕事に対する姿勢を踏まえながら、大学の理事長、学長として「学生に本来の“学問の楽しさ”を教え、その意欲に灯をともしたい」と語りました。

熱心に講演を聞く学生たち

国際交流推進に向けた初の試み

JETRO 2007 日韓中産業交流会に参加

ノースアジア大学ブースにて

JETRO（日本貿易振興機構）2007日韓中産業交流会が６月13日から16日にかけて韓国・ソウル市内の韓国国際展示場（KINTEX）で開催され、本学が初めて参加しました。

プレゼンテーションで大学の魅力をＰＲ

本学はこの交流会に、学園と観光学科のＰＲ、外国人留学生特別入学試験や留学生別科生試験のPRを主な目的として、秋田県産業経済労働部商工業振興課と本学が観光連携協定を結んでいる小坂町と共同参加しました。「地域ビジネスゾーン」にブースを出展し、学園パンフレットや入試要項の配布と大学の概要や入試に関する説明、観光学科ＤＶＤの上映などを行いました。

また、３日目と４日目に２回、会場内のプレゼンテーションコーナーで大学のＰＲを実施しました。その際に、本学協定校の慶熙大学校大学院グローバルガバナンス専攻に在学中のジョ ナヨンさんに、通訳などをお手伝いいただきました。

会期中にはソウル市内にある北東北３県・北海道ソウル事務所と日本学生支援機構ソウル支部を訪問し、韓国における日本への留学動向などに関する情報収集や留学生募集への協力を依頼しました。

にかほ市、湯沢市、八峰町とも観光連携協定
～顧問会議で産官学の協力体制を確認～

本学では６月28日に秋田県にかほ市と７月３日には同湯沢市、同月13日には同八峰町と「観光に関する連携協定書」に調印いたしました。

いずれの市・町でも地域に活力を与えるためには、観光資源を活かした人的交流の増加が大切と考えています。これを実現するため各関係機関と連携して、その受け入れ体制を整え、魅力あるイベントづくりなどに取り組みたいとしています。また国内はもとより、現在、県内には中国や韓国など国外からの観光客も増えており、更なる招致とそれに応対できる人材も求められています。

本学は来年４月に東北初の観光学科を開設します。そこでは自治体や企業と連携し、実社会に適応した学問を展開していきたいと考えています。さらにアジアからの観光客を視野に入れて中国、韓国などの教育機関、行政機関との交流提携を行い、国外でも実践的な教育を行うための準備を整えています。

このように官学の連携を深めた上で人材の育成や学生のフレッシュな感性での情報発信、海外からの観光客の招致などを視野に入れた観光資源の開発を行い、観光の振興を図っていくものです。

第１回顧問会議

７月９日、国際観光研究所は本学40周年記念館講堂で、同研究所の顧問及び県内旅行業関係者及び本学と観光連携協定を結ぶ自治体の担当者に参加いただき、第１回顧問会議を開催しました。

会議は、始めに自治体での観光招致の事例や観光振興への取組みを紹介しました。そして、ANA 総合研究所を始めとする旅行業者やホテルの関係者から、企業の視点で見た観光振興や人材の育成について幅広く意見交換をしました。

平成19年度予算

平成19年度予算は３月28日の理事会、評議員会において承認されました。これによると平成19年度の資金収支予算は総額7,109,667千円となりました。

〔収支予算概要〕

平成19年度の主な事業として、名称変更、昼夜開講制の開始や観光学科開設に伴う準備、学年進行となる看護福祉大に係る設備投資などで教育研究環境の充実を図ります。

収入については、従来どおり学生生徒等納付金、入学検定料や証明書発行などの手数料のほか、国や地方公共団体からの補助金等です。一方、支出については、各種講演会・講座開講や国際交流推進に係る経費、就職指導経費、各種奨学費、学外施設実習費などの教育研究経費並びに名称変更に伴う経費、観光学科開設など学部改革に係る経費、学生生徒募集経費などの管理経費です。また学園の将来に備えてノースアジア大学減価償却引当特定預金、施設・設備等修繕引当特定預金などの組み入れは継続して行っています。

＜平成19年度資金収支予算書＞

収入の部　（単位　千円）

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
学生生徒等納付金収入	2,429,698	2,721,675	△ 291,977
手数料収入	32,928	36,219	△ 3,291
寄付金収入	0	19,930	△ 19,930
補助金収入	1,000,020	1,110,669	△ 110,649
資産運用収入	75,067	120,084	△ 45,017
資産売却収入	0	72,866	△ 72,866
事業収入	264,313	194,802	69,511
雑収入	57,596	223,444	△ 165,848
前受金収入	556,262	567,110	△ 10,848
その他の収入	260,458	844,957	△ 584,499
資金収入調整勘定	△ 639,759	△ 822,238	182,479
前年度繰越支払資金	3,073,084	3,708,504	△ 635,420
収入の部合計	7,109,667	8,798,022	△ 1,688,355

支出の部

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
人件費支出	2,609,138	2,959,415	△ 350,277
教育研究経費支出	941,918	925,617	16,301
管理経費支出	252,732	233,100	19,632
施設関係支出	43,400	97,554	△ 54,154
設備関係支出	41,710	73,573	△ 31,863
資産運用支出	479,585	627,124	△ 147,539
その他の支出	650,197	1,323,351	△ 673,154
［予備費］	50,000	50,000	0
資金支出調整勘定	△ 1,881,116	△ 564,796	△ 1,316,320
次年度繰越支払資金	3,922,103	3,073,084	849,019
支出の部合計	7,109,667	8,798,022	△ 1,688,355

〈千円未満は切り捨てで表示〉

＜平成19年度消費収支予算書＞

収入の部　（単位　千円）

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
学生生徒等納付金収入	2,429,698	2,721,675	△ 291,977
手数料収入	32,928	36,219	△ 3,291
寄付金収入	2,000	21,930	△ 19,930
補助金収入	1,000,020	1,110,669	△ 110,649
資産運用収入	75,067	120,084	△ 45,017
資産売却収入	0	56,485	△ 56,485
事業収入	264,313	194,802	69,511
雑収入	57,596	223,443	△ 165,847
帰属収入合計	3,861,622	4,485,307	△ 623,685
基本金組入額合計	△ 86,108	△ 228,003	141,895
消費収入の部合計	3,775,514	4,257,304	△ 481,790

支出の部

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
人件費支出	2,609,138	2,959,415	△ 350,277
教育研究経費支出	1,484,277	1,467,976	16,301
管理経費	269,630	249,998	19,632
資産処分差額	1,002	298	704
徴収不能額	12,800	12,800	0
［予備費］	50,000	50,000	0
消費支出の部合計	4,426,847	4,740,487	△ 313,640
当年度消費支出超過額	651,333	483,183	
前年度繰越消費収入超過額	599,230	1,082,413	
翌年度繰越消費収入超過額		599,230	
翌年度繰越消費支出超過額	52,103		

〈千円未満は切り捨てで表示〉

平成18年度決算

平成18年度決算は、５月30日の理事会、評議員会において承認されました。

平成18年度は経済学部に２学科を設置しました。総合研究センターには国際観光研究所を設立し、観光奨学生制度の導入など将来に向けた学科の再編を検討し、教育研究活動の充実を図っています。

時代にふさわしい学園の組織運営を目指していますが、少子化に伴い、本法人を取り巻く経営環境も一段と厳しさを増しています。

このような状況下、本法人は高等教育機関としての役割を担い、地域・社会に有為な人材の育成に全学上げて努力してきました。また、建学の精神に則った実学教育の重視、個性的で魅力的な教育研究活動を実践してきました。更に16年度に策定した大学改革案に沿って、経済学部の学科再編、法学部の昼夜開講制導入、新学科開設に向けた海外高等教育機関等との提携など教育及び経営面の改革を実施し、学園の将来に向けた準備にも努めました。

〔18年度決算概要〕

収入については、学生生徒等納付金、国庫補助金、秋田県からの運営費補助金等で収入済額8,846,678千円となりました。

支出については、前述のように教育研究活動の充実及び国際交流推進を図ったほか、減価償却、施設・設備等修繕などに対応するための積み立てを行いました。

また、消費収支決算においては、施設・設備修繕費等として47,286千円を基本金に組み入れた結果、当年度収支消費差額は326,534千円の収入超過となり、翌年度への収入超過額は1,408,949千円となりました。

平成18年度資金収支計算書

収入の部

（単位　千円）

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,721,675	2,718,843	2,831
手数料収入	36,219	39,900	△ 3,681
寄付金収入	19,930	18,100	1,830
補助金収入	1,110,669	1,169,561	△ 58,892
資産運用収入	120,084	165,664	△ 45,580
資産売却収入	72,866	0	72,866
事業収入	194,802	214,741	△ 19,939
雑収入	223,443	243,137	△ 19,694
前受金収入	567,110	539,411	27,698
その他の収入	844,957	893,266	△ 48,309
資金収入調整勘定	△ 822,237	△ 864,453	42,216
前年度繰越支払資金	3,708,504	3,708,504	△ 1
収入の部合計	**8,798,022**	**8,846,678**	**△ 48,656**

支出の部

（単位　千円）

科目	予算	決算	差異
人件費支出	2,959,415	2,940,571	18,843
教育研究経費支出	925,617	823,908	101,708
管理経費支出	233,100	220,059	13,040
施設関係支出	97,554	19,000	78,554
設備関係支出	73,573	66,553	7,019
資産運用支出	627,124	627,124	0
その他の支出	1,342,801	1,342,799	1
［予備費］	(19,450)		
	30,550		30,550
資金支出調整勘定	△ 564,796	△ 635,405	70,609
次年度繰越支払資金	3,073,084	3,442,067	△ 368,983
支出の部合計	**8,798,022**	**8,846,678**	**△ 48,656**

〈千円未満は切り捨てで表示〉

平成18年度消費収支計算書

（単位　千円）

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,721,675	2,718,843	2,831
手数料	36,219	39,900	△ 3,681
寄付金	21,930	18,896	3,033
補助金	1,110,669	1,169,561	△ 58,892
資産運用収入	120,084	165,664	△ 45,580
資産売却差額	56,485	0	56,485
事業収入	194,802	214,741	△ 19,939
雑収入	223,443	243,137	△ 19,694
帰属収入合計	4,485,307	4,570,746	△ 85,439
基本金組入額合計	△ 228,003	△ 47,286	△ 180,716
消費収入の部合計	**4,257,304**	**4,523,459**	**△ 266,155**

（単位　千円）

科目	予算	決算	差異
人件費	2,959,415	2,602,116	357,298
教育研究経費	1,467,976	1,341,723	126,252
管理経費	254,678	241,628	13,049
資産処分差額	298	296	1
徴収不能額	12,800	11,160	1,639
［予備費］	(4,680)		
	45,320		45,320
消費支出の部合計	**4,740,487**	**4,196,924**	**543,562**
当年度消費収入超過額	0	326,534	
当年度消費支出超過額	483,183	0	
前年度繰越消費収入超過額	1,082,413	1,082,413	
翌年度繰越消費収入超過額	599,230	1,408,948	

〈千円未満は切り捨てで表示〉

平成18年度貸借対照表

（単位　百万円）

資産の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	23,700	23,921	△ 221
有形固定資産	13,940	14,393	△ 453
その他の固定資産	9,759	9,527	232
流動資産	3,683	4,051	△ 368
資産の部合計	**27,383**	**27,973**	**△ 589**

（単位　百万円）

負債の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	339	678	△ 338
流動負債	1,335	1,959	△ 624
負債の部合計	1,675	2,638	△ 963
基本金の部			
第１号基本金	22,637	22,590	47
第２号基本金	900	900	0
第３号基本金	367	367	0
第４号基本金	395	395	0
基本金の部合計	24,299	24,252	47
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入超過額	1,408	1,082	326
消費収支差額の部合計	1,408	1,082	326
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部			
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	27,383	27,973	△ 589

〈百万円未満は切り捨てで表示〉

2007 ノースアジア大・栄養短大「高杉祭」開催

華麗な舞で観客を魅了「よさこい演舞」

教職員も多数参加、両日大いに盛り上がる

6月30日、7月1日の2日間にわたり、本学下北手のキャンパスで、ノースアジア大学・秋田栄養短期大学大学祭「高杉祭」を開催しました。

30日に行われた開祭式では、小泉健理事長兼学長が挨拶に立ち、「ノースアジア大学となって初めての大学祭です。学生・教職員一致団結して、活気ある楽しい大学祭にしてください。また、連携協定を結んでいる自治体と地域の方々からは出店などご協力いただき、誠にありがとうございます。皆様に愛され、素晴らしい大学にするようがんばりますので、今後もご支援くださるようよろしくお願いいたします」と述べました。

「男鹿なまはげ太鼓」オープニングは力強い演奏で

多くの来場者で賑わうキャンパス

続いて、佐藤健司高杉祭実行委員長が「今回のテーマは、大学の名称変更・大学祭の時期の変更に対して、新たな出発・新たな気持ちで取り組むという意味を込めた大学祭となっています。皆さん、高杉祭を楽しんでください」と述べました。

学園関係者による開祭のテープカットに続いて、新たに出発する学園の躍進を願い、鳩が空に放たれました。

開祭式後は、なまはげの装いで勇壮な「男鹿なまはげ太鼓」の演奏があり、高杉祭の開催を盛り上げました。

同日午後には、本学客員教授福岡政行氏（白鷗大学教授）の講演会があり、現在の国政や社会問題に対する鋭い分析と論評、そしてユーモアを交えた内容となりました。

2日目は、秋田市内の小学生の団体や一般の団体による「よさこい演舞」の力強く華麗な舞、また連携先である仙北市の有志による「角館飾山囃子」の三味線など和楽器演奏と優雅な舞が披露され、観客を魅了しました。このほか、わらび座による特別公演のお囃子ミュージカル「笛じいちゃんとボクの宇宙（そら）」など多くのイベントを開催し、キャンパスは大いに賑わいました。

「角館飾山囃子」は優雅な舞い

わらび座による「笛じいちゃんとボクの宇宙（そら）」も好評

期間中、のべ4,000人（教職員・学生・出店者含む）が高杉祭に参加し、模擬店やイベントを楽しんでいました。

オープンキャンパスで大学を、より身近に

● 公開講義やキャンパス見学、先輩によるパネルディスカッションも ●

ノースアジア大学、秋田栄養短期大学では6月30日に第1回オープンキャンパスを、また7月29日に第2回オープンキャンパスを開催しました。

併せて313名の高校生・保護者の参加があり、模擬授業での大学の講義体験や入試解説、就職ガイダンスを通して教育内容や取り組みに理解を深めました。

今年度の新たな試みとして、6月30日はキャンパスの雰囲気を十分に感じられるように大学祭との同日開催にしました。また、7月29日は在学生によるパネルディスカッションを行い、大学・短大の先輩たちが具体的に分かりやすく大学での講義や課外活動について語りました。

今後、オープンキャンパスは8月18日、9月22日、12月2日と3回の開催を予定しています。参加申し込み等については下記、入試広報課までお問い合わせください。

ノースアジア大学・秋田栄養短期大学　入試広報課
〒010-8515　秋田市下北手桜字守沢46-1
TEL：018-836-1342　　FAX：018-836-2485
E-mail:nyushi@nau.ac.jp

GDPランキングから「日本ってどんな国？」

模擬裁判を熱心に見学

観光を学ぶことについて先輩が語る

大学生活とは…先輩によるパネルディスカッション

さくら SAKURA 学校法人ノースアジア大学 広報
第212号
平成19年8月20日 編集・発行 理事長室 〒010-8515 秋田市下北手桜字守沢46-1
☎018-836-6527 FAX018-836-3321 URL http://www.nau.ac.jp/

看護福祉大 オープンキャンパス開催

看護、介護の実習を模擬体験

秋田看護福祉大学の第１回オープンキャンパスが７月14日、第２回が８月７日に行われ、大館市や秋田市のほか県外から高校生や父母約90人が参加しました。

オープンキャンパスは大学の教育内容の紹介や施設・設備の見学を通して、理解を深めてもらうことを目的として開催しています。

人形を用い人工呼吸の方法を学ぶ

看護学科の模擬授業では、近年公共施設や大型店舗などに設置されているAED（自動体外式除細動器）の使い方や、人工呼吸の仕方について人形を用いて体験しました。

AEDの使用方法の説明を受ける

また、社会福祉学科では教員と在学生が実際に介護の際の体の動かし方を紹介しました。

このほか入試説明や個別相談会、また在学生が案内するキャンパスツアーも行われ、参加者は大学での一日を体験しました。

今後も９月15日、10月27日、３月20日と３回の開催を予定しています。お申し込みやお問い合わせは電話またはメールで学務課入試係まで。

TEL：0186-45-6510　E-mail：wwwadm@well.ac.jp

「学生ほっとスペース」を開設

学生同士や教職員とのコミュニケーションの場に

本学では６月11日から、学生が孤立することなく大学生活を楽しみ、また勉学にも集中してもらうための支援策としてキャンパス内に『ほっとスペース』を開設しました。場所は40周年記念館食堂隣で、学生相談室にも隣接しています。

スペースの運営にあたっている教育指導室職員によると、訪れる学生たちとの会話を通して就職や進級、体調の不安などさまざまな悩みを抱えている学生が見受けられるとのことです。心のケアを必要とする学生に対しては相談専門員が、また慣れない一人暮らしやダイエットなどで体調を崩している学生に対しても管理栄養士資格を持つ職員が適切にアドバイスします。

指導室では「一人で問題を抱え込まず、何でも話しに来てください」と来室を呼びかけています。

父母会の協力によりコーヒーなどの飲み物を無料で提供していますので、「心を休める場所」として気軽に利用してください。

学生の話をじっくり聞けるスペース

高校生・大学生有志が通学路を清掃

６月22日、学生と教育指導室職員、学生支援課職員18名が参加し、本学から秋田駅東口までの通学路の清掃活動を行いました。この道路は、本学学生と明桜高校生が利用しています。

参加した学生は普段利用する通学路のゴミの多さに驚き、またこのような機会があれば、ぜひ参加したいなどの感想がありました。

また、７月13日には、明桜高校の生徒が下北手中学校、横森・桜、秋田駅東口の３方面に分かれてクリーンアップ活動を行いました。

通学路には予想以上のゴミが…

学生食堂で温かい食事を

提供される定食の一例

一人暮らしの学生対象に食事提供サービス開始

本学では、主に親元を離れて暮らす学生を対象にした食事提供のサービスを行なっています。これは自炊に不慣れで栄養のバランスが取れた食事をとることが難しい学生が見受けられることから、父母に同サービスの利用を呼びかけたものです。

サービスの方法は、父母から事前に食事券（380円×20回分）を購入してもらい、学生は学生食堂でその券を利用して食事を摂ります。

提供メニューは「肉または魚の主菜、野菜メインの副菜、ご飯、味噌汁」などの定食で、温かく栄養のバランスが取れたものを心がけています。

利用時間は午前10時30分から午後４時までの間ならいつでも利用でき、利用券に有効期限はありません。

利用をご希望の方は、ノースアジア大学学生支援課までお問い合せください。

電話　018－836－4328・1332